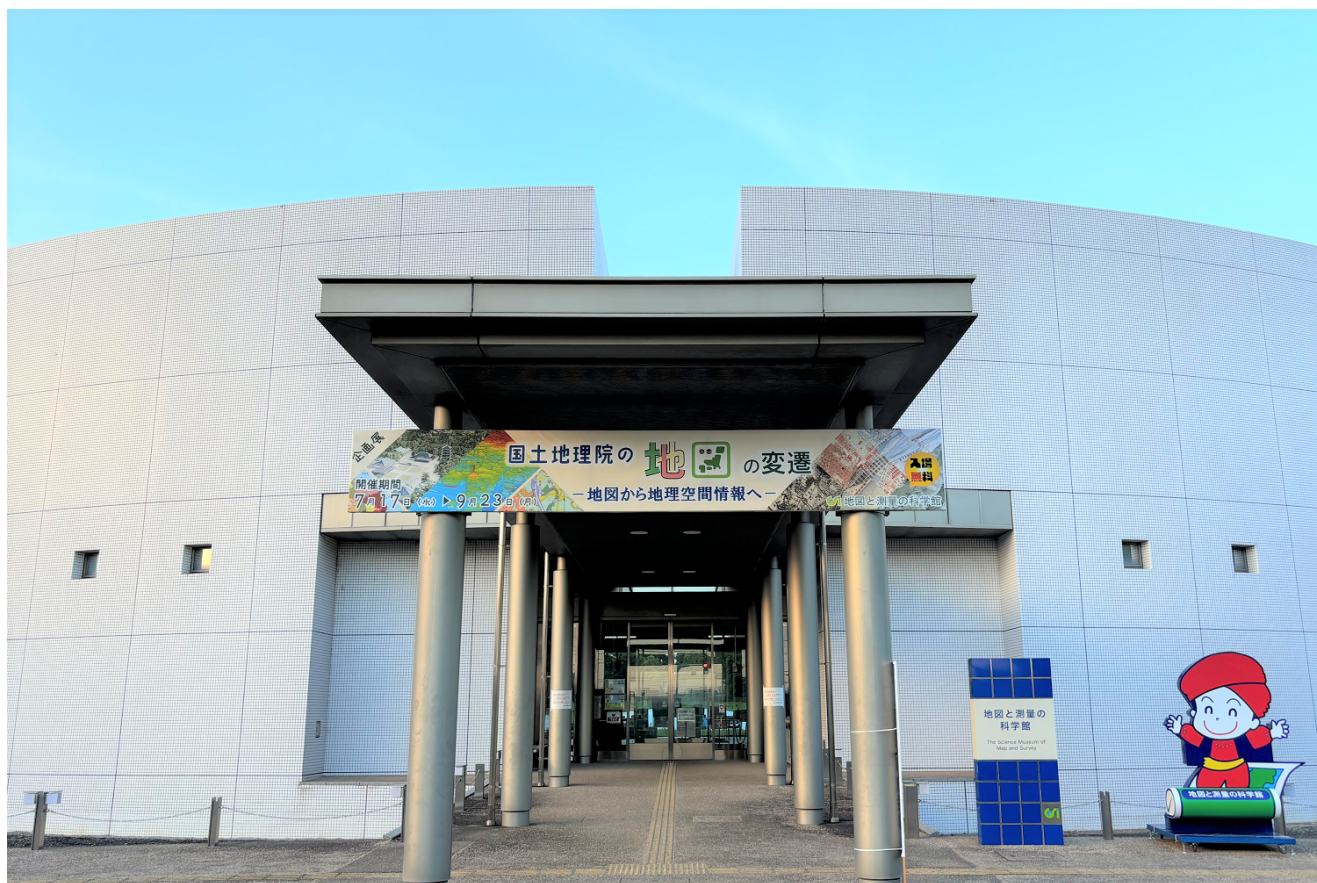




地図と測量の科学館で企画展「国土地理院の地図の変遷 ―地図から地理空間情報へ―」開催中

CONTENTS

1. 国土地理院長交代	2
2. 令和6年測量士・測量士補試験合格者を発表	3
3. 「測量の日」 関連行事を実施	
●「測量の日」における功労者感謝状贈呈式を開催	4
●「くらしと測量・地図展」を開催	5
4. 第53回国土地理院報告会を開催	6
5. 第243回地震予知連絡会の開催概要	7
6. 「自然災害伝承碑  」ウェブ地図「地理院地図」での公開数	8
7. 6月の報道発表・8月の主な行事予定	8

国土地理院長交代

7月6日付けで大木 章^{おおき しょういち}一 国土地理院長が退任し、同日付けで山本 悟司^{やまもと さとし}前埼玉県副知事が新たに院長に就任しました。

【就任のあいさつ】

7月6日付で国土地理院長を拝命した山本です。歴史と伝統のある国土地理院の長を務めることになり、責任の重みを感じているところです。

国土地理院の勤務は今回初めてですが、以前、国土交通本省大臣官房技術調査課で環境安全・地理空間情報技術調整官として在籍していた当時、地理空間情報の取りまとめをしており、国土地理院とは関わりがありました。今回、そんな国土地理院の一員になれることを大変うれしく思っております。

国土地理院は、明治の初めから150年を超える歴史と伝統のある機関であります。測量・地図作成事業は、国家プロジェクトの一つとして、国土管理の土台になってきました。

デジタル社会に向けての取組が急速に進められている現代においても、国土を測ることは、社会資本整備を支えるだけでなく、経済活動全般の基礎となる大変重要な役割を果たしていると考えています。例えば、公共工事において、工事の前の最も大切な役割を担っているのが「測量設計」です。最近、測量にも多くの新技術が導入され、効率化、高精度化が図られております。かつて技術調査課にいたときはNETIS（新技術情報提供システム）やSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）といった、新技術の活用に関わる仕事をしていましたが、国土地理院においても皆さまが持つ技術をこれからの社会にどう生かすか、どう発展させていくのかを考えることが非常に重要だと思いますし、測量分野における技術革新の中心的役割を今後も果たしていきたいと考えております。

そして、国土地理院の重要な取組を広く世の中に知ってもらうことも重要です。今年1月の能登半島地震でも、国土地理院は、関係機関や地元自治体の災害応急対応に必要な空中写真撮影や、だいち2号の観測データを解析するなど、被害状況の把

握に必要な情報をいち早く提供し、その内容はテレビや新聞等でも大きく報じられました。このように、国土地理院の重要性を国民全体に知ってもらう一翼を担いたいと思っています。

最後になりますが、国土地理院の技術力を世の中のために十分発揮できるよう、私も全力で取り組んでいきますので、皆さまよろしくお願いいたします。



国土地理院長 山本 悟司

プロフィール

昭和42年生 長野県出身

主な経歴

平成元年4月	建設省入省
平成30年7月	国土交通省関東地方整備局道路部長
令和2年6月	西日本高速道路(株)執行役員
令和4年7月	埼玉県副知事
令和6年7月	国土地理院長

(総務部)

令和6年測量士・測量士補試験合格者を発表

5月19日に実施した令和6年測量士・測量士補試験の合格者を、測量士は7月9日、測量士補は6月27日に発表しました。

試験は全国14都道府県（15試験会場）で実施し、合格者数は測量士が485名、測量士補が4,276名でした。試験結果は合格発表当日に国土地理院ホームページで公開するとともに、受験者全員に合格証書又は試験結果通知書を発送しました。

各試験地の願書提出者数、受験者数及び合格者数は下表のとおりです。

試験地	測 量 士				測 量 士 補			
	願書提出者数	受験者数	合格者数	合格率%	願書提出者数	受験者数	合格者数	合格率%
北海道	353	263	33	12.5%	714	571	174	30.5%
宮城県	464	320	34	10.6%	1,411	1,179	260	22.1%
秋田県	162	119	18	15.1%	462	416	89	21.4%
東京都	1,488	884	143	16.2%	4,764	3,426	1,301	38.0%
新潟県	193	132	10	7.6%	463	383	98	25.5%
富山県	217	153	16	10.5%	587	488	167	34.2%
愛知県	539	357	58	16.2%	1,749	1,386	487	35.1%
大阪府	704	441	54	12.2%	1,973	1,474	541	36.7%
島根県	229	171	15	8.8%	462	388	93	24.0%
広島県	177	135	17	12.6%	606	503	141	28.0%
香川県	321	229	26	11.4%	923	778	208	26.7%
福岡県	502	325	43	13.2%	2,084	1,744	489	28.0%
鹿児島県	207	137	12	8.8%	696	597	172	28.8%
沖縄県	84	51	6	11.8%	408	300	56	18.7%
合 計	5,640	3,717	485	13.0%	17,302	13,633	4,276	31.4%

試験問題や解答例など詳細は以下のホームページをご覧ください。

(https://www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN/goukaku_2024_00001.html)

(総務部)

「測量の日」関連行事を実施

●「測量の日」における功労者感謝状贈呈式を開催

国土地理院は、測量や地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的に、測量の日が制定された平成元年度から、測量や地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人又は団体に感謝状を贈呈しています。

今年度は6月14日に個人1名及び3団体に対し、国土地理院長から感謝状を贈呈しました。

【功労者：個人】 ※敬称略

かわせ まさき
川瀬 正樹（広島修道大学 商学部教授）

【功労者：団体】 ※敬称略

一般社団法人 災害伝承普及協会（代表理事 しょうざん り お 承山 理央）

一般社団法人 東京都測量設計業協会 基準点研究部会（代表 たかぎし すすむ 高岸 且）

伊能忠敬笹山嶺探索の会（会長 か が お こういち 加賀尾 宏一）

贈呈理由については報道発表を参照してください：令和6年度「測量の日」における功労者感謝状贈呈
(<https://www.gsi.go.jp/kohokocho/kohokocho65041.html>)



手前左から加賀尾宏一氏、承山理央氏、大木国土地理院長、川瀬正樹氏、高岸且氏

(総務部)

●「くらしと測量・地図展」を開催

「測量の日」東京地区実行委員会（事務局：関東地方測量部）（以下、実行委員会）は6月5日から7日までの3日間、新宿駅西口イベントコーナーにおいて「くらしと測量・地図展」（共催：東京都、後援：新宿区）を開催しました。「くらしと測量・地図展」は、「測量の日」関連行事として開催し、今回は令和6年能登半島地震特設コーナーやミニ講演会を用意し、約3,700人の来場者がありました。

今回で30回目となる「くらしと測量・地図展」では、「楽しみながら地図を読み、大地を測る～時代とともに活きる街～」をテーマに実行委員会の各団体が展示等を行いました。今年は令和6年能登半島地震特設コーナーを設けるとともに、好評のミニ講演会も実施しました。ミニ講演会では、伊能忠敬



大きくなって日本をお散歩（国土地理院展示）

時代の水上交通、北極の不思議、南極の地図づくり、魅力ある測量・設計、東京時層地図、測量基準点と防災、能登半島地震の対応の講演を行いました。複数の講演を連続して聴講される方、質問のやり取りの中で新しい発見をされた方がおられるなど、聴講された方の関心の高さがうかがえました。



当院の能登半島地震の対応（ミニ講演会）

関東地方測量部からは、「測る、描く、守る、伝える」のパネル展示と東日本地方の余色立体図の床展示、特設コーナーの令和6年能登半島地震のパネルを展示しました。ミニ講演会では、吉高神専門職が南極観測の体験を「南極の地図づくり」と題

して、また、特設コーナーの展示に関連し^{しげまつ}重松防災課長が「令和6年能登半島地震における国土地理院の対応」と題して、それぞれ発表しました。



能登半島地震の被災状況（特設コーナー）

会場には、連日通われる熱心な方、ミニ講演会を楽しみに来場された方、通りがかりに覗いて思わず長居をしてしまった方、現地見学の高校生などが



街の変遷を見る（国土地理院展示）

来場し、測量・地図に親しんでいただきました。来場者からは、「日本は思ったより凸凹している」「地図はいくらでも見ていられる」「地震でこんなに動くものなのですね」などの声が寄せられました。

関東地方測量部では、今後とも「測量の日」関連行事として、測量・地図等の重要性について理解が広まるように本取組を継続して参ります。

（関東地方測量部）

第53回 国土地理院報告会を開催

6月6日に「第53回国土地理院報告会」を日経ホール（東京都千代田区）において開催し、6月13日から6月28日までの間、講演をオンデマンド配信いたしました。

国土地理院報告会は、測量・地図・地理空間情報について、国民の皆様理解を深めていただくことを目的に、昭和47年（1972年）から毎年度開催しており、今回で53回目となります。報告会では国土地理院の取組や施策などを紹介するとともに、関連分野の有識者の方にご講演いただいております。

今回の報告会では、「これからの測量と地図—新たな「基本測量に関する長期計画」と国土地理院の災害対応—」をテーマに、本年1月に発生した令和6年能登半島地震への対応状況や、今年度新たに施行した「基本測量に関する長期計画」と、計画の中で実施していく施策について報告しました。また、報告会の冒頭では、本年度から発足した新組織「防災・地理空間情報企画センター」を紹介しました。

特別講演では、「基本測量に関する長期計画」の策定において有識者会議の座長を務めていただいた東京大学教授の布施孝志^{ふせ せたくし}氏に、「次世代地理空間情報に向けて」と題して、現実の時空間情報・仮想空間における情報とそのシームレス化、現実と仮想をつなぐ測位と測量・地図情報に関してご講演いただきました。

会場内では、令和6年能登半島地震に関連した能登半島の災害現況図等の地図や災害対応に関するパネルを展示するとともに、国土地理院の各種取組を紹介するパネル展示、パンフレットの配布や動画放映を行いました。

今回の報告会では、民間企業、教育関係、行政関係や学生など、幅広い分野から、多くの方にご参加いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



講演の様子



展示の様子

国土地理院職員による講演資料は、以下のホームページでご覧いただけます。是非ご覧ください。
<https://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPYYOU/2024/main53.html>

来年度も6月に開催を予定しております。詳細が決まりましたら国土地理院のホームページでお知らせしますので、是非ご参加ください。

（企画部）

第243回地震予知連絡会の開催概要

令和6年5月22日国土地理院関東地方測量部において第243回地震予知連絡会がオンライン併用で開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリング、地殻活動の予測についての報告のほか、重点検討課題として「火山と地震」に関する報告・議論が行われました。

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「火山と地震」を課題として、以下の①～④の報告が行われました。また、総合討論では、大地震が火山噴火の引き金を引く条件は何か、火山周辺で発生する地震活動はどのような火山活動と関連しているのか、火山直下で発生する地震・微動の特徴やその原因にはどのようなものがあるのか等についての議論が行われました。

①地震によるマグマ溜まりへの影響評価

数値シミュレーション（有限要素法）により地震に伴う応力変化が火山システムの応力場に与える影響を試算しました。平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震とその4日後に発生した静岡県東部の地震は、富士山のマグマ溜まりに静的応力変化（差応力）を与えたこと、また、平成28年（2016年）熊本地震では、阿蘇山のマグマ溜まりに静的応力変化（差応力）を与えたことが分かりました。火山噴火のトリガーとして地震が噴火ポテンシャルに及ぼす影響を評価するためには、本手法のような外的な応力変化の定量的な評価に加えて、物質科学的観点からの評価とを統合して検討することが必要であることが報告されました。

②火山構造成地震で知る火山活動過程

火山性地震は火山内部状態を把握するうえで極めて有用な道具となります。静岡県伊東市沖の群発地震の例では、震源の移動と地殻変動の解析から、マグマが深部から上昇して浮力を失い深さ5～7kmにとどまる様子が明瞭に見られ、また、伊豆大島のように活動的な火山では、静穏期であっても間欠的なマグマ蓄積による応力変化に対応した地震活動の明瞭な時間変化が見られることが分かりました。地震活動はマグマ蓄積による応力変化から速度状態依存則を用いた推定値とよく一致している

ことが報告されました。

③火山で発生する「地震でない地震」について

火山活動に起因する振動現象（火山性地震・微動）には火山性流体の移動や体積変化によるものがあることについて解説が行われました。低周波地震等は全てのイベントを断層運動と波動伝播の効果のみで説明するのは難しく、断層の強度低下等の議論で想定される間隙流体と異なり、流体力学で取扱可能な空間スケールの流体領域が想定されますが、地震学の範疇では流体の詳細に言及できず、流体側のモデルが別途必要になる点が報告されました。

④データベースからみえる地震と火山の相互作用

データベースをもとに、地震と火山の相互作用の有無を検証し、全世界のデータから、大地震の発生によって0.5micro以上の膨張場となる火山において、噴火発生率は2～3倍増加すること、また、大地震によって噴火を誘発可能性が高まる火山は、全世界で年間2～3座であり、そのうち15～25%で実際に噴火を引き起こしていること、一方、火山噴火の約13%において、火山からの距離が50km以内で、3～4か月間に中規模地震が発生していること、日本では、東北地方太平洋沖地震により、周辺の地震活動が活発化あるいは不活発化となる火山が増えたことが報告されました。

○次回の会議開催予定

第244回地震予知連絡会は、令和6年8月29日（木）に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「トルコ・シリア地震」について報告予定です。

○会議資料の公開

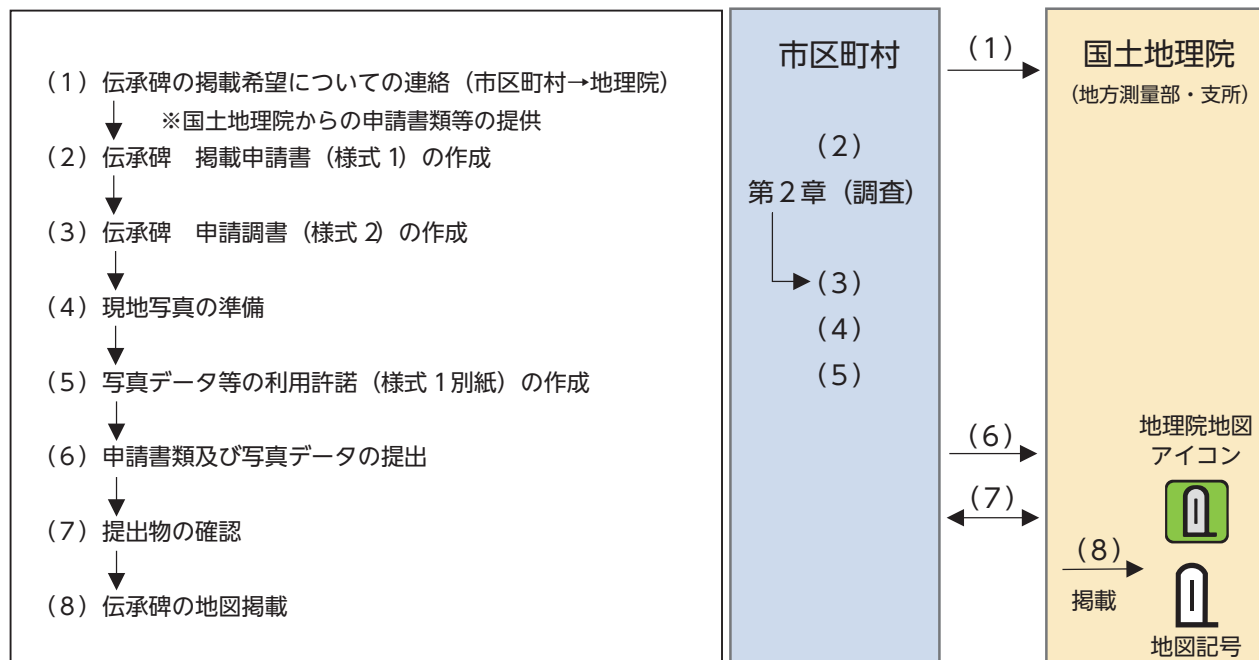
本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>
(地理地殻活動研究センター)

47	都道府県	625	市区町村	2149	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
「市区町村の担当者の皆様へ」 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版 (令和6年3月)」
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html をご覧ください。

6月の報道発表

3日	令和6年度「測量の日」における功労者感謝状贈呈	総務部
6日	地盤沈下を稠密に把握できるようになります！ —衛星データを活用した測量マニュアルを作成—	測地部
10日	令和6年5月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
13日	火山の成り立ちがわかる火山土地条件図「焼岳」を公開	応用地理部
13日	「測量の日」記念講演会を開催	九州地方測量部
19日	「Geo アクティビティコンテスト」作品募集開始	防災・地理空間情報企画センター

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2024年 報道発表資料一覧
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2024.html> をご覧ください。

8月の主な行事予定

7/17～9/23	地図と測量の科学館 企画展「国土地理院の地図の変遷 —地図から地理空間情報へ—」
8/29	第244回地震予知連絡会

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ> 広報誌> 国土地理院広報
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
 Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>